

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>認知症ケアについての基本理念はあるが、地域の中で位置づけした理念は、盛り込まれていない。</p>	<p>基本理念に地域の中でその人らしく暮らし続けていくことの必要性、その方法を盛り込み、地域との交流を図るケアを検討していく。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>基本理念を事業所内の目の届く場所に掲げ、常に意識して業務にあたるようにしている。又、理念の詳細資料を作成し、職員採用時は資料を渡しながらい理念について説明を行っているが、全職員の理解は充分には図れていない。</p>	<p>朝礼、申し送り時、必要の都度、全職員に伝え徹底を図っていききたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>入居時に必ず説明している。又、来所時に必要に応じてお話しているが、定期的には行っていない。</p>	<p>今後家族会を開催し、その際にも説明を行い浸透を図りたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>公園に出かけたり、隣接の動物小屋に近所の方が集まっている際は、積極的に出掛け交流を図っている。又野菜や食材を頂くことがあり、その食材で作った食事(おやつなど)を差し上げるなどして日常のおつきあいに努めている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の方のボランティアは受け入れて交流を図っていたが、地域活動に参加する機会は設けていなかった。</p>	<p>自治会に加入するなど地域活動の情報を収集し、積極的に参加を希望し、地域の方との交流を図っていききたい。</p>

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族が来所された際、話題にすることはあるが、話し合いまでには至っていない。		運営推進会議で情報収集したり、その情報を受け職員間で定期ミーティング時などに検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	朝礼、申し送り時などに評価の実施意義を伝えているが、評価を活かすまでには至っていない。		今回の評価を受け、改善に取り組んでいきたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には活動状況をまとめた資料を作成し、それをもとに報告や話し合いをしている。会議後はそこで出た意見などを会議録にまとめ、朝礼時の口頭説明と合わせて文書を回覧し全職員に周知しているが、具体的なサービス向上には活かしていない。		具体的なサービス向上につなげて行く。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	できる限り文書等は郵送ではなく直接持参するなどして、話をする機会を設けている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料はファイルにまとめてあるが、勉強会を開くなどの学ぶ機会は設けていなかった。		勉強会などを開催し、全職員が制度や事業内容を理解し、必要な方に活用できる力を養っていく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に当たるとみえる対応が見受けられれば、逐一朝礼や定期ミーティングで話題にし、注意している。資料をファイルにまとめてあるが、勉強会を開くなどの学ぶ機会は設けていなかった。		積極的に研修会に参加し、勉強会も定期的で開催していく。

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間をかけ、一気に全部を説明するのではなく、区切りながら説明し、その都度不安や疑問等がないか確認し、十分な理解を得てから同意して頂いている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>折に触れて現在の暮らしについての気持ちや不満をお聞きしているが、外部者へ話せる機会は設けていない。</p>	<p>安心相談員導入を依頼中の為、今後活用し、職員へ言いにくいことでも気軽に話せるような機会を設定したい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当者より「今月の様子」として、その月の様子を文書にし、写真を貼布して御家族にお送りし、詳細に報告している。些細なことでも変化や気になることがあれば、その都度電話等にて報告し、記録している。</p>	<p>ホーム便りの作成を検討し、個々のご利用者様の報告だけでなく、ホーム全体の情報もお伝えしていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に「ご意見箱」を設置し、匿名でも意見が言えるよう配慮している。又面会時等、折に触れ、ささいなことでも気になることがあればなんでも言ってほしいとお伝えしている。</p>	<p>ご意見箱が十分に活用されていないため更に働きかけていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期ミーティングの際、議題を募って提案を聞く機会を設けている。又職員から希望があった際は必ず手を止め、その場で話を聞くようにしており、受けた意見を結果として反映できるようにしている。</p>	

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>新人事考課制度を十分に活用していく。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>入居前に必ず面談を行い、ご利用者様からの意見を伺う機会を設けている。又生活暦や生活習慣についての情報収集を充分に行い、ご本人がうまく表現できない不安なども把握できるよう努めている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>入居時にはもちろんのこと、必要に応じて数回面談し、不安なことや要望など些細な事でも話して頂けるよう努めている。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		<p>面接時には現在の状況を把握し、優先して解決すべき問題を見極められるよう整理しながら話し合い、必要であれば他サービスの情報提供も積極的に行なっている。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>まずご本人、家族ともに見学に来て頂き、雰囲気を感じて頂く事を基本としている。可能であれば一緒にレクに参加して頂いたり、お茶の時間を共に過ごすなどしてご本人が落ち着いた状態で過ごせるか等をご家族と相談しながら段階的にサービス利用に繋げている。</p>

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活の主人公はご利用者であり、職員はその生活の一端を担う支援者であると認識している。家事活動などご本人の得意であった事を役割や日課として職員と共に行なって頂いている。時にはご利用者から方法や手順を教えて頂く等して職員が学ばせてもらうことが多々ある。</p>	<p>職員全員に認識が浸透しきれておらず、時に指導的で会ったりすることもある為、今後とも認識の統一に努めていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日頃の様子を文書で細かくお伝えしたり、面会の際も現在の状況をお伝えしたり、今までの状況をお伺いするなど情報交換に努め、互いに協力しながらご本人を支援していきたいと伝えている。</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している</p>	<p>定期的な外泊が習慣であった方は引き続き外泊して頂くなど、入居してもご家族との関係がなるべく変化しないように配慮している。又定期的に様子報告をしたり、状況に応じて外出や面会を打診するなどして、ご本人と家族の関係が持続していけるよう支援している。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今まで通っていた病院に通院するため、付き添いをしていたが、主治医が一律協力病院に変更となった為やや困難になってしまった。しかし、ご家族に依頼してお墓参りにいたり、親戚の集まりに参加して頂く等して関係が途切れないよう努めている。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>ご利用者同士の関係を観察し、食事の際に楽しく過ごせるような配置を検討したり、掃除や家事活動を行う際、ご利用者同士で一緒に行って頂く様声を掛けるなどして、互いに協力し合う状況を設定出来る様努めている。</p>	

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した方は1名のみで、継続を必要とはされていないが、四十九日にお手紙を送るなどして、終了後も関係を大切にしたい。		今後も大切にしていきたい。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	折に触れて現在の暮らしについての気持ちをお伺いしたり、言動からどのように暮らしていきたいと思っているか把握できるよう努めている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、経過について細かく情報収集しており、全職員が把握するようにしている。又入居後も生活動作から得意な事などを発見し、役割活動などに活かしている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活動作ひとつひとつをよく観察した様子や、一緒に家事活動を行う中で有する能力を発見したことを逐一記録にとどめ、現状を総合的に把握出来る様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成に際は、必ずご本人とご家族それぞれに意向をお伺いし、その内容を反映させて作成している。又居室担当者から現在の課題やケアについての意見を吸い上げたり、他職員とも情報交換や意見交換をした上で介護計画を作成している。		

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		<p>期間に応じて、必ず見直しを行なっていく。期間に限らず状況変化時等は速やかに新たな計画を作成する。</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録にケアプランの項目を設け、ケアプランの内容にご本人の状況を記録している。その記録により実践の工夫に活かしている。又、介護計画の見直しに繋げる目的で記録している。</p>	<p>記録内容を活かすためにも、介護計画の見直しを行う。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ご本人やご家族の要望があれば、出来るだけ機能を活かし、柔軟に対応していくよう努めている。</p>	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>運営推進委員会を通じて、地元の区長や民生委員に必要なに応じて協力を仰ぎたい旨伝えている。ご本人の意向や必要性に応じてボランティアを依頼している。</p>	
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>ご利用者の希望に応じて訪問理容のサービスを活用している。</p>	

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員会を通じて地域包括支援センターのケアマネージャーと情報や意見交換をしている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族に同意を頂き、かかりつけ医の定期的往診を受けている。又ご利用者によってはかかりつけの歯科医があり、ご本人の希望や様子などの状況に応じて、ご家族に往診の手配をお願いしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医など認知症に詳しい医師との関係は築けていないが、かかりつけ医の往診時には相談をしたり、診察して頂いている。		認知症専門医との関係を築き、相談できる機関をつくっておく。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月に2回訪問看護師が来所し、健康管理や医療的処置をして頂いている。訪問時に限らず状態変化時や対応に苦慮した際は相談し、対応の指示を仰いでいる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際にはお見舞いに行った際、情報交換や相談をしている。又、定期的に病院と連絡を取り状況説明して頂いたり、退院の見通しについて相談したりしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重症化した際は早期にご家族と面談し、医師と面談したりしながら意向を確認している。意向に応じて書面にて方針を明確化し、全員で共有して対応にあたっている。		

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>看取り介護に対する介護計画書の作成を検討する。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>全職員がどんな場面でも、自尊心やプライバシーを尊重した声かけをしている状態には至っていないので、引き続き徹底していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>職員が働きかける際、時折ご本人の意向を確認せず職員のペースで活動してしまう場面がある為、引き続き徹底していきたい。</p>

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の流れに沿うように、と職員のペースで進めることはせず、ご本人のその日の体調や気持ちを確認して、ご本人のペースを優先に一日を過ごして頂けるよう支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理容師やご利用者のご家族が経営する美容師に来て頂くなどして、理美容師も選択出来る様にしている。その際希望者にはマニキュアを塗ってもらうなどのおしゃれを楽しんで頂いている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材切り、調理、米研ぎ、盛り付けをしたりなど、一人ひとりが得意な事を見極めそれぞれ行なって頂いている。その際何の料理を作るか説明をし、一方的な調理の手伝いにせず職員と一緒に作る感覚を楽しんで頂いている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>誕生日にはお好きな食べ物を提供したり、偏食が激しい方には、好みの食べ物を提供している。現在たばこや飲酒を希望される方はいないが、要望があれば提供し、嗜好を大切にしていきたい。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>失禁がある際も安易に紙パンツに移行せず、可能な限り布パンツ着用のままとして様子を見ている。又失禁やパット使用が著しい方は、専用のチェック表を作成し、排泄パターンを掴んで適宜誘導失禁等の減少に努めている。</p>	

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本の入浴表はあるが、拒否の際は無理強いせず違う日にしたり、入浴日でなくても希望があれば入浴して頂いている。又入浴表も、回数や時間は入居前に聞き取った今までの習慣を基に作成し、本人の習慣やペースを大切にしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠の訴えがある際は温かいミルクをお出ししたり、職員と談笑するなどしてゆっくり休んで頂けるよう配慮している。又日中の活動を活発にし、夜間の安眠に繋げられるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴からご本人の得意だったことや習慣を職員間で把握し、普段の生活からできる事、できない事を見極め、できる事や好きな事を役割として日常的に行なって頂くよう支援している。又散歩などの習慣も好きな時に行なえるよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持する事による混乱を防ぐ為に、所持金は職員間で把握するようにしているが、安易に職員管理とせず、ご本人が財布を所持することを支援している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の悪い日以外は、散歩に行く事を日課とし、戸外に出かける機会を確保している。出かけるのも散歩の時間だけに限らず、職員間で便宜を図り付き添うなどして、外出したい時に外出して頂けるよう支援している。		

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月間行事として少し足を伸ばす場所や、季節を感じる催しがある場所への外出を企画し実施している。個別に行きたい場所の聞き取りはしているが、実施には至っていない。		月間行事とは別に個別行事として一人ひとりが行きたい場所への外出を実施していく。又その際ご家族も参加できるように企画する。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい希望がある際は、お手伝いしながら電話を使用して頂いている。手紙のやりとりは要望がなかった為行なっていない。		年賀状など、ご利用者からの要望がなくとも職員から働きかけ、手紙のやりとりを楽しめる支援をしていく。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があった際は、お茶をだしたりおやつと一緒に召し上がって頂くなどして、居心地がよいと感じる環境に配慮し、今後も気軽に来所して頂く様努めている。又面会時間を規定せず、早朝や夜間訪問があっても制限しないようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行ってはいるが、職員全員が標記の具体的な行為を理解するまでには至っていない。		全職員に対して勉強会や研修会の機会を増やし、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する理解を深めていく。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由な暮らしができる場所との認識をもってもらう為に日中は施錠しないよう徹底している。急な外出に際しても職員間で便宜を図ったり、活動や業務を変更するなどして自由に出入りできる環境にしている。		

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングで過ごされる方が多いが、居ない際は居室にいらっしゃるか等、所在を確認している。又玄関のチャイムが鳴った際は即座に確認し、外出による事故等ない様留意している。夜間も定時以外にも巡視を行い、様子観察して安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫箱の針などはチェック表を作成し、使用前後に職員が確認する方法で危険を防ぎ、ご利用者には自由に使って頂く様にしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に対するマニュアルを作成したり、事故に繋がる可能性がある際は、申し送りノートを活用し、職員間で対応を徹底している。事故報告書やひやりはっと報告を記入し、申し送りやミーティング時に職員間で共有し、後の事故防止に繋がられるようにしている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や訓練などは行ったが、定期的には実施していない。		消防署の講座に参加したり、勉強会を開催するなど、定期的実施していくよう計画をたてる。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の施設と協同して避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて、災害時の協力についての依頼と体制について確認していく予定である。		地域の方と協力については、運営推進会議を活用していく。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活や行動に抑制をしない分リスクは高まる旨を入居前に十分な説明を行うと共に、入居後も折に触れて、起こり得るリスクについて説明して了承を頂いている。		

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝バイタルチェックを行い、測定値と併せて様子観察し、体調の把握や異常の早期発見に努めている。又一人ひとりの病状や必要に応じて適宜バイタルチェックし、状態把握に努めている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人ファイルに服薬状況や処方箋を保管し、服薬内容について把握している。又各自の専用ケースを用意し、適切な内服が出来るよう支援している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>毎日おやつに乳製品を取り入れた食事を提供している。食事以外にも水分摂取を促したり、毎日健康体操をして体を動かす機会を設け便秘にならないよう工夫している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、一人ひとりの状況に応じて声がけしたり介助する等して口腔ケアを行い、口腔内の清潔が保てるよう支援している。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>必要な方には摂取量チェック表を作成したり、記録に落とす等して摂取量を把握している。管理栄養士の立てた献立を基に調理し、栄養バランスが保てるよう配慮している。</p>	

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	医療従事者による勉強会に参加したり、感染対策マニュアル等を作成し、予防や早期対応が出来るよう努めている。		あらゆる感染症についての予防及び対応マニュアルを作成し、対応について全職員間で徹底を図る。
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	漂白は毎日行い、調理用品等の衛生管理に留意している。又買い物は当日夕方、翌日朝・昼食分までとし、なるべく新鮮な食材を使用し、長期保管をしないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を飾ったり、季節に応じて建物周囲の花壇に花を植えたりして、明るい雰囲気を出せるようにしている。又道路に面した庭に野菜や花を植え、通りかかった人が声をかけやすいような環境になるよう配慮している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの明かりが気になる方のため、カーテンで覆う等して落ち着く環境になるよう配慮している。リビングにはその季節に応じた飾り物や、行事で出かけた際の写真を飾るなどして季節感を感じられるようにしている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢の方と触れ合えるリビングの大テーブルと一人になれる居室の他に、リビングにソファやござスペースを配置し、周囲の様子を見ながら一人でいられる空間や、数名の気の合う方と過ごせる場所を作っている。		

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物は制限せず、ベッド以外は使い慣れた物を自由に持ってきて頂いている。仏壇やタンス等を持ち込んでいる方もおられ、居室にも個性が出ており、ご利用者一人ひとりが思い思いの部屋で過ごされている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室に空気清浄機やエアコンを設置している。又日中定期的に窓を開け換気している。建物が外側断熱にて構造上快適に生活できるよう設計されているが、天候に合わせて必要な際は冷暖房を使用し、こまめに温度調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一般浴槽とは別に特別浴槽があり、身体機能に応じて浴室を使い分け安全に入浴して頂いている。又、必要に応じて手すりの増設をし、自立した生活が送れるよう配慮している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事と出来ない事シートを作成し、出来る事や出来ない事を把握している。出来ない事は無理に設定せず混乱や屈辱感を与えない様配慮し、出来る事は役割として設定し、自立した活動ができるよう支援している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲に植えられた花をみて散歩の際会話をしたり、庭に野菜を植え園芸活動に活用している。又天気の良い日はベランダにテーブルとイスを並べてご利用者と職員で一緒にお茶やおやつを食べたりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームフランセーズ悠よしだ(たんぼぼユニット)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)